

マニャン 幼児の半数栄養不良

AMDAの
竹久さん
岡山で帰国報告

今年5月、サイクロン「ナルギス」による災害に見舞われたマニャンで母子栄養改善プロジェクトに携わった国際医療援助団体「AMDA」(本部・岡山市)のスタッフ、竹久佳恵さん(33)がこのほど、岡山市内で帰国報告会を開いた。

竹久さんはAMDAミャンマー駐在代表として、07年7月から今年6月まで中国国境に近い北シャン州コーカソン特別地区で活動。同所では、3歳未満の幼児の約半数が栄養不良という。竹久さんは畑で収穫した野菜を引き合いに、3大栄養素の



AMDAスタッフの竹久さん＝岡山市内でマニャンでの活動を報告する

大切さを母親たちに伝えたという。

また、幼児の栄養状

態を確認するため、定期的な身体測定を試みたが「悪魔が乗り移る」

などと、当初は母親から拒否された体験を紹介。しかし、「理解してくれる母親が、別の母親へ知識を伝えることで徐々に浸透した」と振り返った。

ナルギス被害に関しては、復興救援活動に「学生や市民が積極的に動いた」と語り、「今年にはマニャンのボラティア元年と呼ばれる」と締めくくった。

【松井豊】